

量的調査における性的マイノリティの諸課題

平森大規 (法政大学)

【目的】

近年、国内外においてレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー (LGBT) を含む性的マイノリティに対する関心が高まっている。量的データを用いて性的マイノリティと家族に関する研究を行う上で重要なステップとして、調査回答者の性的指向と性自認のあり方 (SOGI) を正確に測定することが挙げられる。欧米諸国では無作為抽出調査における SOGI 測定法に関する方法論的研究がみられるようになったが、これらの研究による知見がどの程度日本社会に適用可能であるかについては疑問がある。

【方法】

そこで本研究では、日本における性的マイノリティをとりまく社会的文脈を考慮に入れた SOGI 設問を開発すべく、フォーカス・グループ・ディスカッションおよびパイロット調査を行った。これらは社会調査法の分野において、先行調査の検討、専門家によるレビューや認知インタビュー等と並んで標準的に用いられている調査設問の開発・評価手法である。性的マイノリティについては性的マイノリティ当事者向け団体のミーティングやブライドパレードでフォーカス・グループ・ディスカッションの参加者を募集し、性的マイノリティ非当事者については協力者募集業務の委託を行い、フォーカス・グループ・ディスカッションの参加者を募集した。また、スノーボール・サンプリング法を用いてパイロット調査も実施し、主に性的マイノリティ非当事者による回答を募った。参加者が45人のフォーカス・グループ・ディスカッションが合計9回実施され、パイロット調査では20件の回答が集められた。

【結果】

収集されたデータの分析を行った結果、「1) 性的指向アイデンティティ (本人の性的指向の認識) の各選択肢に説明をつけること、2) 異性愛者向けおよび非異性愛者向けに2種類の「その他」を含めること、3) 性的に惹かれる相手や性行為の相手の性別等の設問では、回答者の性別によって選択肢の男女順を並び替えられない場合、「セックスをしたことがない」等を最初の選択肢とすること、4) 異性愛者の選択肢には「すなわちゲイ・レズビアン等ではない」という文言を入れること、5) 「異性愛者」を最初の選択肢とすること、6) 「好きになる性別」という文言を性的指向をとらえる際に使用しないこと、7) 出生時に割り当てられた性別、性自認に加えて違和感の有無についてたずねる3ステップ方式を採用すること、8) 性別に関するさまざまなカテゴリーからあてはまる選択肢を複数選ぶ形の設問は使用しないこと、9) ジェンダー・セクシュアリティに関する設問において、男性カテゴリーを女性カテゴリーよりも先に位置するように表示すること」(Hiramori and Kamano 2020:466) が日本の文脈を考慮した上で SOGI をたずねるにあたって重要であることが分かった。

【結論】

異性愛者は自身の性的指向を「異性愛者」ではなく「ゲイ・レズビアン等ではない」という性的マイノリティに距離を取る形で認識しているため、単に性的指向の設問に異性愛者という選択肢を設けるだけでは異性愛者がその選択肢を回答しないという欧米諸国の研究と類似する「異性愛者問題」の存在が日本においても確認された一方、現在欧米諸国で広く用いられている出生時に割り当てられた性別と性自認をたずねる2ステップ方式は日本では好ましくない可能性が示唆されるなど、日本の文脈を考慮に入れた SOGI 測定法の研究を行うことの意義が示された。当日は、これらの提言を元に作られた設問を使用して実施された無作為抽出調査である「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんする調査」の結果やその後の研究動向についても報告する予定である。

【文献】

Hiramori, Daiki, and Saori Kamano. 2020. "Asking about Sexual Orientation and Gender Identity in Social Surveys in Japan: Findings from the Osaka City Residents' Survey and Related Preparatory Studies." *Journal of Population Problems* 76(4):443-66.

キーワード: SOGI 測定法、LGBT、フォーカス・グループ・ディスカッション